これからのC³プロジェクト活動

＜第2回視察の実施が決定＞

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」が決定し，昨年10月に実施した視察プログラム。核燃料サイクル開発機構東海事業所の視察の経験は，視察参加者にとって原子力事業所の安全対策を学ぶとともに，住民の視点からの安全対策を事業所側に伝えるよい機会となりました。また，言いっぱなし，聞きっぱなしにせず，何度も繰り返し事業所側と話をする機会がたいへん重要であると考えています。今年も，いろいろな事業所を対象に実施していく予定です。

昨年12月には，日本原子力発電株式会社より，視察を受け入れたいとの連絡が入りました。４～５月実施に向けて，3月下旬から実行委員会を重ね，さらによい視察プログラムにしていきたいと考えています。また，他の事業所にも視察を通じて住民とのリスクコミュニケーションを図っていただくよう，お願いしていきます。

＜来年度計画を検討します＞

「東海村の環境と原子力安全について提言する会」は，3月の会合で来年度の活動計画を検討します。まだ検討中のインタープリター（解説者）育成プログラムの実現に向けてどのような活動が必要か，もっと村民の皆さんに関心をもっていただくためにどうすればよいか，などを考えています。皆さんからのご提案も大歓迎です。事務局のポストやホームページを通じてご意見をお寄せください。

皆さんのご意見をお待ちしています！

＜プロジェクトの活動を業務報告書にまとめています＞

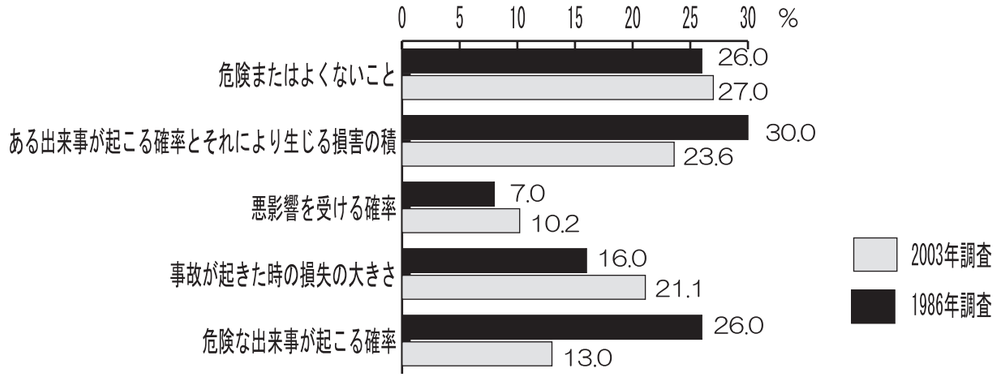
原子力安全・保安院に報告するため，研究プロジェクトのメンバーは今年度の活動内容を業務報告書にまとめています。この報告書は，3月26日の評価委員会終了後，公開される予定です。C³プロジェクトでは，昨年同様，プロジェクトのホームページで報告書全文を公開することにしています。また，合同庁舎の事務局でも報告書を閲覧できるようにします。

＜プロジェクトの来年度の目標！　リスク情報の発信＞

リスクコミュニケーションは，リスクに関わる様々なことを話し合うこと。「提言する会」の議論も視察プログラムも重要なリスクコミュニケーションです。しかし，15年度は’リスク’を直接議論してきたわけではありません。来年度は，プロジェクトとしても原子力リスクから身近なリスクまで，リスク情報を発信していきたいと考えています。

調査結果のご紹介

「リスク」とはどういうことだと思いますか



1986年に行われた調査と2003年に電力中央研究所が実施した調査の結果を比較しています。「リスク」の正しい定義は，「ある出来事が起こる確率とそれにより生じる損害の積」ですが，86年当時は危険な出来事が起こる確率と考えていた人が多く，最近では危険またはよくないこと，事故が起きた時の損失の大きさと考える人が多くなっているようです。

リスク情報を読み分ける

私たちのまわりには、リスク情報が溢れています。牛丼の中止で話題になった狂牛病。2年前、国内で狂牛病が発生した時には、牛肉の消費量が4割まで減ってしまいました。人気の焼肉店がガラガラだったのを思い出します。しかし、狂牛病自体はその10年以上前からイギリスで発生しており，この時期にイギリスに滞在していた人は献血ができないのだそうです。そして、今回のアメリカでの発生。確か、米国農務省は日本の新聞に「米国の牛肉は安全」という広告まで出していたはずですが、やはり発生してしまいました。

今回、牛肉を避けようとする人が少ないのはどうしてでしょうか？ すぐに輸入禁止の措置が取られましたし、国産と輸入品の表示があるので、米国産牛肉を食べないようにできる、と考える人が多いからかもしれません。（発生前にすでに輸入されていた米国産牛肉は出回っていますし、表示もあてにできない事件が相次いでいますが・・・）このように、私たちは、病気が発生したら、すぐに自分たちに影響があるとは考えていません。何か病気や死をもたらす原因があって、その原因にさらされる機会があるかないかが問題だと思っています。

リスクを計算するときも同じように考えていきます。まず原因が発生する機会はどのくらいあるか、それが私たちに影響を与える機会はどのくらいあるか、影響によって私たちが被害を受ける機会と程度はどのくらいかなどです。

新聞などで伝えられるリスク情報を生活の中で上手に利用するにはどうしたらよいでしょうか？ まず、**①絶対値か相対的な比率かを確認する**ことが重要です。「死亡○人」といっても、100人に対してなのか、1万人に対してなのかで危険度が異なってきます。次に、**②どのくらいの期間の話なのか**を調べましょう。「○人が死亡する危険がある」といっても、1年間のことなのか、一生のことなのかで危険度は異なります。また、**③誰のリスクなのか**ということも重要です。日本人を対象にしているのか、男性なのか女性なのか、ある年齢層の人のことなのかによって、自分自身が原因にさらされる機会や影響を受ける程度が変わってきます。

このようなことは、多くの人が無意識にやっていることです。しかし、意識的にリスク情報を読むことで、より上手にリスク情報を利用することができ、自分にとって本当に避けなければならない危険というものを見極めることができるようになります。最後にもうひとつ、新聞やテレビの情報は、必ずしも皆さんにとって本当に気をつけなければならないリスクを伝えているわけではない、ということも覚えておいてください。新聞やテレビが伝えるのは目新しいリスクに偏りがちです。そして、私たちは伝えられないリスクを過小評価してしまいがち、忘れてしまいがちなのです。